

大阪の街と人を愛した作家
花二嵐ノ夕トエモアルズとは言うが……

昨今の猛烈なアツさ加減…。大概にしてほしいが、夏をテーマに心に響く名文句がある。

“蟻一匹炎天下”作家・藤本義一さん(1933～2012)が好んで色紙に書いた言葉だ。

カーッと燃える太陽。灼熱の地面をチロチロ歩く蟻一匹。蒸発しそうな、蟻の小さな黒い点をジッと見つめていると、あの蟻は私かもしれないと思えてくる。涼しい蔭に身を隠そうかと思っただが、いやいや働き者の蟻のように、辛くても、もうひと踏んばり、おてんとさまの下へ出ますかと勇気づけられる。

藤本さんも大阪らしいユニークな作家である。大阪府立大学在学中から劇作家を志し、卒業前年の昭和32(1957)年、ラジオドラマ「つばくろの歌」で芸術祭文部大臣賞戯曲部門を受賞し、「東の井上ひさし、西の藤本義一」と賞讃された。

大学卒業後は、「わが師」と語る映画監督の川島雄三(1918～1963)に師事して脚本を執筆し、強い影響を受けた。映画『貸問あり』(1959年)の脚本は川島と共作する。急逝した川島監督を描いたのが、昭和46(1971)年の直木賞候補「生いきそぎの記」であり、のちに『川島雄三、サヨナラだけが人生だ』(河出書房新社、2001年)で、川島との日々に触れた小説・随筆・対談をまとめている。

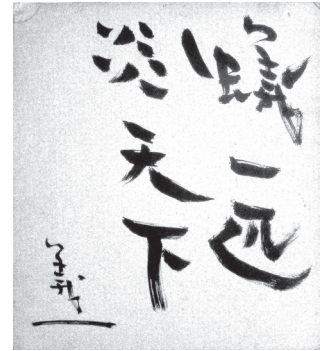
昭和40(1965)年、人気番組「11PM」の大阪側キャスターとなる。25年続いた長寿番組で、思春期のころ、大人の番組として、深夜ドキドキしながらチャンネルを回した方も多いただろう。

昭和49(1974)年には、大阪の落語家・桂馬喬を描いた『鬼の詩』で第71回直木賞を受賞する。村野鐵太郎監督で映画化され、当時の文楽の本拠地であった道頓堀・朝日座で映画を観たのが記憶に残る。

藤本さんは大阪の街と人を愛し、井原西鶴をとりあげた『サイカクがやって来た』(1978年)や、川島雄三と親交があり、その原作で「わが町」(1956年/日活)を撮影した織田作之助について『螢の宿わが織田作』(1986年)を発表する。オダサクを書くことは、師につながる大切なテーマだった。

さらに、若手漫才師の勉強会「笑の会」を「村長」としてリードし、「芸術祭優秀賞」(1979年)を初の東京公演で受賞する。当時学生で東京にいた私は、B&B、ザ・ぼんちなど、新宿紀伊國屋ホールでのこの公演を見ることができた。

現在、雑誌『大阪春秋』において、イラストレーターの成瀬國晴さんから、イラストをはじめ芸術や文化、大阪のことなどを伺うという連載に、聞き手の一人として私は参加している。成瀬画伯は、『11PM』で共演した藤本さんの大親友であり、『大阪春秋』150号で藤本さんについて熱く語っておられる。取材で、画伯に教えていただいたのが、“蟻一匹炎天下”の言葉だ。



力のこもった書がすばらしい。
「蟻一匹炎天下」の色紙。

この言葉はなかなか洒落ている。じっと覗いてみると、「蟻一匹」から漢字の虫偏がとれて「義一」が浮かんできませんか。「蟻一匹」に藤本さんは男一匹ならぬ「義一」一匹の思いをこめた。

御命日である10月30日の藤本さんを偲ぶ会も、「蟻君忌」であり、この日に「藤本義一文学賞」の授賞式も開かれる。成瀬画伯によると、最初「蟻炎忌」の提案もあったが、「炎」は家の中での父らしくないと娘たちが言うので「蟻君忌」にしました、と統紀子夫人から連絡があったという。ご家庭でのお人柄と、ご家族のやさしい気持ちが偲ばれる話である。二年前には、蔵書や遺品を集めたギャラリー「藤本義一の書齋～Giichi Gallery～」が芦屋市奥池に開設され、公開されている。

藤本さんは、作家養成スクール「心斎橋大学総長」をつとめたり、阪神淡路大震災の震災遺児の施設建設にも尽力するなど、創作活動にとどまらず、広く社会のためにも尽くされた。“蟻一匹炎天下”のユーモラスな六文字に秘められた、こうした大阪人らしい、優しくも毅然としたダンディズムに私は憧れる。



「藤本義一の書齋～Giichi Gallery～」書や絵画、思い出の品なども展示している。

〈開廊日時〉

・4月～11月の土・日 11時～16時

・12月の日曜日 11時～15時

詳しくは、ホームページ <http://giichigallery.net>

筆者プロフィール

橋爪 節也 はしづめ せつや

大阪大学総合芸術博物館前館長／大学院文学研究科教授。1958年、大阪生まれ。東京芸術大学大学院修了。大阪市立近代美術館建設準備室学芸員を18年間つとめ現職。専門は日本美術史。展覧会では「没後200年記念木村兼葭堂一なにわ 知の巨人」「北野恒富展」「没後80年記念佐伯祐三展」などに携わる。編著に『大大阪イメージ増殖するマンモス／モダン都市の幻像一』(創元社)など。